

(Q6) クローン牛は、死産等の率が高いと聞きましたが、なぜですか。

- 1 受精卵クローン牛の死産等の発生率すなわち死産と生後直死を合わせた割合は、14.0%であり、体細胞クローン牛の死産等の発生率は、32.0%となっています。(2005(平成17)年9月30日現在までのデータによる。)
- 2 一方、国内で一般に飼養されているホルスタイン種の死産等の発生率は、5.3%との報告例があります。
- 3 クローン牛の死産等の発生率が高い理由としては、クローン動物作出技術が十分に確立されていないことなどがあげられます。
- 4 今後は、クローン技術を一層改善することにより、死産等の発生率を減少させていくことが可能になるものと考えられます。

<用語解説>

死産：

胎子が母体外で生活能力を持つ期間すなわち最短妊娠期間(胎齢250日程度)に達したのち、死亡して産まれてきたもの。

生後直死(せいごちょくし)：

生きて分娩された後、まもなく(概ね24時間以内)死亡したもの。

(Q7) クローン技術で生まれる牛は虚弱であり、特別な飼料や医薬品等を使用した飼養管理をしているのではないですか。

クローン牛の死産等の発生率が高いことは事実ですが(Q6参照)、普通に生まれてきたクローン牛は、一般の牛と同様に健康であり、特別な飼料や医薬品等の投与によって健康を維持する必要は全くありません。

したがって、飼養管理において、いわゆる医薬品漬け(抗生物質やホルモン剤など)といったことはなく、一般の牛と全く同様の飼養管理が行われています。